

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2018-91002

(P2018-91002A)

(43) 公開日 平成30年6月14日 (2018. 6. 14)

(51) Int. Cl.	F 1	テーマコード (参考)
EO4B 1/70 (2006.01)	EO4B 1/70 D	2 E O O 1
EO4F 19/04 (2006.01)	EO4F 19/04 A	

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 11 頁)

(21) 出願番号	特願2016-233841 (P2016-233841)	(71) 出願人	503367376
(22) 出願日	平成28年12月1日 (2016. 12. 1)		ケイミュー株式会社
			大阪府大阪市中央区城見一丁目2番27号
		(74) 代理人	100087767
			弁理士 西川 恵清
		(74) 代理人	100155745
			弁理士 水尻 勝久
		(74) 代理人	100143465
			弁理士 竹尾 由重
		(74) 代理人	100155756
			弁理士 坂口 武
		(74) 代理人	100161883
			弁理士 北出 英敏
		(74) 代理人	100167830
			弁理士 仲石 晴樹

最終頁に続く

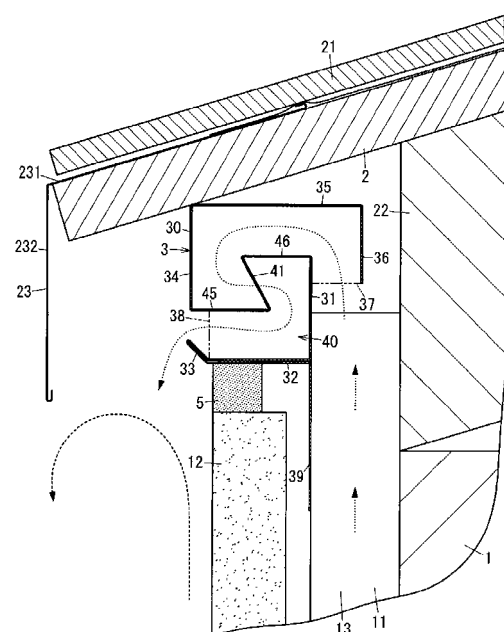
(54) 【発明の名称】 通気部材およびこれを備えた外壁構造

(57) 【要約】

【課題】屋外側の開口から雨水の浸入を低減させることのできる通気部材およびこれを備えた外壁構造を提供する。

【解決手段】通気部材3は、壁下地1と外壁材12との間に形成された通気層13と屋外空間とを連通し、該通気層13を通気するための通気部材3である。通気部材3は、通気層13内に開口するように配置される屋内側開口37と、屋内側開口37に連通すると共に屋外側に開口する屋外側開口38と、屋外空間から前記屋外側開口に向かう気流を邪魔する邪魔板33とを備えている。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

外壁材の上側に設けられ、壁下地と該外壁材との間に形成された通気層と屋外空間とを連通し、該通気層を通気するための通気部材であって、

前記通気層内に開口する屋内側開口と、

前記屋内側開口に連通すると共に屋外側に開口する屋外側開口と、

前記屋外空間から前記屋外側開口に向かう気流を邪魔する邪魔板とを備えていることを特徴とする通気部材。

【請求項 2】

前記邪魔板は、前記屋外側開口の下方に配置され、該屋外側開口よりも屋外側に向かって延出している

ことを特徴とする請求項 1 記載の通気部材。

【請求項 3】

前記邪魔板は、屋外側ほど上方に位置するように傾斜している

ことを特徴とする請求項 2 記載の通気部材。

【請求項 4】

前記屋外側開口の上方に設けられ、前記通気部材の屋外側に設けられる化粧部材と当接する当接部をさらに備え、

前記当接部は、前記邪魔板よりも屋外側に位置する

ことを特徴とする請求項 2 または請求項 3 記載の通気部材。

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の通気部材を備えた外壁構造であって、

前記壁下地との間で前記通気層を形成する前記外壁材と、

前記外壁材の上方に配置され、前記通気層と前記屋外空間とを連通する前記通気部材とを備え、

前記邪魔板は、前記外壁材の屋外側の面よりも屋外側に突出している

ことを特徴とする外壁構造。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、通気部材およびこれを備えた外壁構造に関する。

【背景技術】**【0002】**

特許文献 1 には、従来の外壁構造が開示されている。この特許文献 1 記載の外壁構造においては、外壁材と壁下地との間に通気空間（以下、通気層）が形成され、外壁材の上端には、見切材が設けられている。この見切材は、上記通気層と屋外空間とを連通する通気路を有しており、この通気路を介して通気層を換気することができる。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】特開 2011 - 106234 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

ところで、この従来の見切材は、屋外側の開口が下方または側方に開口している。このため、例えば荒天時に、外壁面に沿って吹き上がる風に乗った雨が、見切材の通気路に吹き込む場合がある。この場合、通気路に吹き込んだ水が通気路を介して通気層に浸入し、外壁材の裏面や壁下地の表面に付着すると、外壁材や壁下地の耐久性等の観点から好ましくない。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 5 】

本発明は、上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的とするところは、屋外側の開口からの雨水の浸入を低減させることができる通気部材およびこれを備えた外壁構造を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 6 】

本発明の通気部材は、外壁材の上側に設けられ、壁下地と該外壁材との間に形成された通気層と屋外空間とを連通し、該通気層を通気するための通気部材であって、前記通気層内に開口する屋内側開口と、前記屋内側開口に連通すると共に屋外側に開口する屋外側開口と、前記屋外空間から前記屋外側開口に向かう気流を邪魔する邪魔板とを備えていること

10

【 0 0 0 7 】

また、この通気部材において、前記邪魔板は、前記屋外側開口の下方に配置され、該屋外側開口よりも屋外側に向かって延出していることが好ましい。

【 0 0 0 8 】

また、この通気部材において、前記邪魔板は、屋外側ほど上方に位置するように傾斜していることが好ましい。

【 0 0 0 9 】

また、この通気部材において、前記屋外側開口の上方に設けられ、前記通気部材の屋外側に設けられる化粧部材と当接する当接部をさらに備え、前記当接部は、前記邪魔板よりも屋外側に位置することが好ましい。

20

【 0 0 1 0 】

また、外壁構造は、上記のいずれかの通気部材を備えた外壁構造であって、前記壁下地との間で前記通気層を形成する前記外壁材と、前記外壁材の上方に配置され、前記通気層と前記屋外空間とを連通する前記通気部材とを備え、前記邪魔板は、前記外壁材の屋外側の面よりも屋外側に突出していることを特徴とする。

【発明の効果】

【 0 0 1 1 】

本発明の通気部材およびこれを備えた外壁構造によれば、屋外側の開口からの雨水の浸入を低減させることができる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 2 】

【図 1】図 1 は、本発明の実施形態 1 の外壁構造の要部断面図である。

【図 2】図 2 は、同上の通気部材の要部の斜視図である。

【図 3】図 3 A は、変形例 1 の外壁構造の要部断面図である。図 3 B は、変形例 2 の外壁構造の要部断面図である。図 3 C は、変形例 2 のさらに他例の外壁構造の要部断面図である。

【図 4】図 4 は、本発明の実施形態 2 の通気部材の要部の斜視図である。

【図 5】図 5 は、同上の外壁構造の要部断面図である。

【発明を実施するための形態】

40

【 0 0 1 3 】

以下、本発明の実施形態について添付図面に基づいて説明する。

【 0 0 1 4 】

〔実施形態 1〕

本実施形態の住宅家屋は、図 1 に示すように、軒の外壁面からの突出の程度が小さい住宅家屋である。本実施形態の屋根は、例えば片流れ屋根により構成される。

【 0 0 1 5 】

屋根は、垂木 2 2 , 野地板 2 , 屋根材 2 1 , 軒先水切材 2 3 を有している。軒先水切材 2 3 は、野地板 2 と屋根材 2 1 との間に位置する固定片 2 3 1 と、固定片 2 3 1 の軒先側の端部から鉛直下方に延びる垂下片 2 3 2 とを有している。垂下片 2 3 2 の下端部は、外

50

壁材 1 2 の上端面とほぼ同じ高さに位置しており、後述の通気部材 3 の底板 3 2 よりも下方に配置されている。

【 0 0 1 6 】

外壁は、図 1 に示すように、壁下地 1 と、壁下地 1 の屋外側の面に固定された複数の縦胴縁 1 1 と、これら縦胴縁 1 1 に固定された外壁材 1 2 と、この外壁材 1 2 の上方に配置された通気部材 3 とを備えている。

【 0 0 1 7 】

壁下地 1 は、外壁材 1 2 が取り付けられる部分である。壁下地 1 は、例えば、土台の長手方向に間隔をおいて立ち上げられた複数の柱（間柱、管柱等）と、複数の柱の屋外側の面に固定された透湿防水シートとを備えている。縦胴縁 1 1 は、透湿防水シートを介して柱に固定されている。複数の縦胴縁 1 1 は、柱の並設方向（つまり土台の長手方向）に一定の間隔をおいて配置されている。

【 0 0 1 8 】

複数の縦胴縁 1 1 には、外壁材 1 2 が取り付けられている。外壁材 1 2 は、板状の壁材であり、例えば、窯業系サイディング材や、金属サイディング材などにより構成される。本実施形態の外壁材 1 2 は、横張り用の外壁材 1 2 であるが、縦張り用の外壁材 1 2 により構成されてもよい。なお、外壁材 1 2 を縦張りする場合には、縦胴縁 1 1 に替えて横胴縁が用いられる。

【 0 0 1 9 】

外壁材 1 2 と壁下地 1 との間には、通気層 1 3 が形成されている。通気層 1 3 は、縦胴縁 1 1 により形成された壁下地 1 と外壁材 1 2 との間の隙間により構成される。通気層 1 3 には、外壁材 1 2 の下方から空気が流入し、流入した空気が通気層 1 3 を上昇し、その後、通気部材 3 を介して屋外側の空間（屋外空間）に流出する。この通気層 1 3 内における空気の移動により、通気層 1 3 が換気され、外壁材 1 2 の屋内側の面や壁下地 1 の屋外側の面（透湿防水シートの屋外側の面）に結露が生じるのを抑制することができ、また、通気層 1 3 を構成する空気層により断熱効果を得ることができる。

【 0 0 2 0 】

なお、外壁材 1 2 の下方から空気が流入する構造については、スタータ金具を用いた周知の構造であるため、説明を省略する。

【 0 0 2 1 】

通気部材 3 は、通気層 1 3 を通気するための部材であり、通気層 1 3 と屋外空間とを連通する。通気部材 3 は、本体部 3 0 と、本体部 3 0 の下端部に設けられた邪魔板 3 3 と、これらを外壁材 1 2 の上方において保持する取付部 3 9 とを備えている。本実施形態の通気部材 3 は、一枚の鋼板を曲げ加工することにより形成されており、本体部 3 0 と邪魔板 3 3 と取付部 3 9 とは一体に形成されている。

【 0 0 2 2 】

本体部 3 0 は、通気部材 3 の主体を構成する部分である。本体部 3 0 は、図 2 に示すように、天板 3 5、水受け部 3 6、外側板 3 4、下底板 4 5、支持板 4 1、上底板 4 6、内側板 3 1、底板 3 2 により構成されており、これらは、金属板を曲げ加工することで一体に成形されている。

【 0 0 2 3 】

天板 3 5 は、本体部 3 0 の上面を構成する部分である。天板 3 5 は、水平面に沿って延びている。天板 3 5 の屋内側の端部には、下方に延びる水受け部 3 6 が設けられている。水受け部 3 6 は、鉛直方向に延びている。水受け部 3 6 は、内側板 3 1 に対し、一定寸法離れた状態で平行に形成されており、その下端部が、設置された状態において通気層 1 3 の屋内外方向の中程に位置するように配置される。外側板 3 4 は、天板 3 5 の屋外側の端部から下方に延びている。外側板 3 4 は、鉛直面に沿って形成されており、本体部 3 0 の屋外側の面を構成する。外側板 3 4 の下端には、屋内側に延びる下底板 4 5 が設けられている。下底板 4 5 は、天板 3 5 に平行に形成されている。

【 0 0 2 4 】

10

20

30

40

50

下底板 4 5 の屋内側の端部には、支持板 4 1 が設けられている。支持板 4 1 は、本体部 3 0 の屋外側の開口（屋外側開口 3 8）から本体部 3 0 の内部に雨水が浸入しても、支持板 4 1 よりも下流側に雨水が浸入するのを妨げることができる。支持板 4 1 には、複数の貫通孔 4 3 が一定のピッチで形成されている。支持板 4 1 は、上側ほど屋外側に位置するように傾斜している。

【 0 0 2 5 】

支持板 4 1 の上端部には、屋内側に延びる上底板 4 6 が設けられている。上底板 4 6 は、天板 3 5 に対し一定寸法離れた状態で平行に形成されている。上底板 4 6 の屋内側の端部には、下方に延びる内側板 3 1 が設けられている。

【 0 0 2 6 】

内側板 3 1 は、本体部 3 0 の屋内側の面を構成する部分である。この内側板 3 1 は鉛直面に沿って形成されており、水受け部 3 6 に対して平行に形成されている。内側板 3 1 の下端部には、屋外側に延びる底板 3 2 が設けられている。底板 3 2 は、本体部 3 0 の下面を構成する部分である。底板 3 2 は、天板 3 5 に対して平行に形成されている。

【 0 0 2 7 】

このような構成の本体部 3 0 は、図 1 に示すように、通気層 1 3 内に開口する屋内側開口 3 7 と、屋外側に開口する屋外側開口 3 8 と、これら屋内側開口 3 7 と屋外側開口 3 8 とを連通する通気路 4 0 とを備えている。屋内側開口 3 7 は、水受け部 3 6 の下端部と、内側板 3 1 とで構成された開口により構成される。屋外側開口 3 8 は、底板 3 2 の屋外側の端部と、下底板 4 5 とで構成された開口により構成される。

【 0 0 2 8 】

通気路 4 0 は、屋外側開口 3 8 と屋内側開口 3 7 とを連通する流路である。通気路 4 0 は、底板 3 2 と内側板 3 1 と上底板 4 6 とでなすコ字状の部分と、下底板 4 5 との間、外側板 3 4 と天板 3 5 と水受け部 3 6 とでなすコ字状の部分と、上底板 4 6 との間により構成されている。通気路 4 0 は、本体部 3 0 の内部において、蛇行するように迷路状に形成されている。

【 0 0 2 9 】

このように、通気路 4 0 は、迷路状に形成されていることで、設置された状態において、屋外側開口 3 8 から雨水が浸入しても、支持板 4 1 で遮ることができる上に、迷路状に形成されていることで、一層雨水の浸入を防ぐことができ、屋内側開口 3 7 に至る水を大幅に抑制できる。

【 0 0 3 0 】

邪魔板 3 3 は、本体部 3 0 の底板 3 2 の屋外側の端部から、屋外側に延出しており、屋外側開口 3 8 よりも屋外側に突出している。邪魔板 3 3 の突出先端は、本体部 3 0 との間に隙間を有している。邪魔板 3 3 は、屋外側開口 3 8 を下方から覆うように形成されており、屋外空間から屋外側開口 3 8 に向かう気流を邪魔することができる。なお、ここでいう「屋外側開口 3 8 に向かう気流を邪魔する」とは、邪魔板 3 3 が設けられない構造に比べて、屋外側開口に吹き込む気流を一定程度遮ることができればよく、気流を完全に遮断する必要はない。

【 0 0 3 1 】

また、邪魔板 3 3 は、底板 3 2 の屋外側の端部から、屋外側ほど上方に位置するように傾斜している。邪魔板 3 3 は、底板 3 2 とのなす角度が、例えば 4 5 ° となるように形成されている。邪魔板 3 3 は、本体部 3 0 の長さ方向の全長にわたって形成されている。これにより、邪魔板 3 3 は、下方から吹き上げる風を屋外側開口 3 8 から離れる方向に導くことができる。

【 0 0 3 2 】

邪魔板 3 3 と底板 3 2 との境界部には、図 2 に示すように、水抜き孔 4 2 が形成されている。水抜き孔 4 2 は、本体部 3 0 の長手方向に沿って所定ピッチで複数形成されている。これにより、底板 3 2 の上面に付着した水滴を、水抜き孔 4 2 を介して排出することができる。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 3 】

本体部 3 0 には取付部 3 9 が設けられている。取付部 3 9 は、底板 3 2 の屋内側の端部から下方に延びている。取付部 3 9 は、図 1 に示すように、縦胴縁 1 1 に取り付けられるように構成されており、本体部 3 0 を外壁材 1 2 の上方に位置させ、屋内側開口 3 7 を通気層 1 3 内に位置させた状態で保持する。なお、外壁材 1 2 の上端面と本体部 3 0 との間には、シーリング材 5 が充填される。

【 0 0 3 4 】

このように取り付けられた状態の通気部材 3 は、邪魔板 3 3 が、外壁材 1 2 の屋外側の面（外壁面）よりも屋外側に突出している。このため、外壁面を伝って吹き上げる風は、傾斜した邪魔板 3 3 によってスムーズに方向転換される。

10

【 0 0 3 5 】

このような構成の外壁構造は、通常時において、通気層 1 3 内を上昇した空気は、屋内側開口 3 7 を介して通気路 4 0 に流入し、屋外側開口 3 8 を介して外部に流出する。これにより、通気層 1 3 が換気される。

【 0 0 3 6 】

一方、例えば、風雨の強い場合、外壁面を吹き上げる風雨は、大部分が邪魔板 3 3 により邪魔されるが、一部が屋外側開口 3 8 を介して通気部材 3 の内部に入り込む。この時、入り込んだ雨水の一部は支持板 4 1 により遮られるものの、支持板 4 1 に遮られなかったごく僅かな雨水が、通気路 4 0 に沿って屋内側開口 3 7 に至る。

【 0 0 3 7 】

20

屋内側開口 3 7 に至ったごく僅かな雨水は、水受け部 3 6 によって受けられ、この水受け部 3 6 を伝って流下する。水受け部 3 6 は、通気層 1 3 の屋内外方向の中程（より詳しくは通気層 1 3 内）に位置しているため、水受け部 3 6 を流れ落ちた雨水は、通気層 1 3 の空間内を落下する。このとき、水受け部 3 6 から落下した水は、外壁材 1 2 および壁下地 1 の双方にほとんど付着しないようにできる。

【 0 0 3 8 】

また、本実施形態の通気部材 3 は、図 1 に示すように流路断面積が、通気路 4 0 の通気方向に沿って順に、大小繰り返し形成されている。具体的に、邪魔板 3 3 と下底板 4 5 との間よりも、下底板 4 5 と底板 3 2 との間の隙間が大きく形成され、下底板 4 5 と底板 3 2 との間の隙間よりも、下底板 4 5 と内側板 3 1 との間の隙間が狭く形成されている。さらに、下底板 4 5 と内側板 3 1 との間の隙間よりも、下底板 4 5 と上底板 4 6 との間の隙間が広く形成され、貫通孔 4 3 によって流路断面積が小さく形成され、その後、支持板 4 1 と外側板 3 4 との間の隙間が広く形成され、上底板 4 6 と外側板 3 4 との間が狭く形成され、上底板 4 6 と天板 3 5 との間が広く形成されている。

30

【 0 0 3 9 】

このように、通気路 4 0 の流路断面積が、通気方向に沿って、大小繰り返し形成されている。空気が、流路断面積が小さい箇所から大きい箇所に移動すると、流速が低下するため、気流に含まれる水が落下する。このように、繰り返し流速を低下させる箇所を形成することで、水が通気層 1 3 に至りにくくすることができる。

【 0 0 4 0 】

40

〔 変形例 1 〕

上記実施形態の通気部材 3 は、例えば、図 3 A に示すような軒先の構造に対しても適用可能である。

【 0 0 4 1 】

変形例 1 の屋根は、上記実施形態 1 と同様、屋根の外壁に対する突出寸法が比較的短いものであるが、鼻隠し 2 4 が設けられている点で実施形態 1 とは異なっている。

【 0 0 4 2 】

鼻隠し 2 4 は、垂木 2 2 の屋外側の端部に固定された鼻隠し下地 2 7 を介して取り付けられている。鼻隠し 2 4 の下端部は、通気部材 3 の屋外側に配置されており、鼻隠し 2 4 の下端面が邪魔板 3 3 とは隙間を介して配置されている。

50

【 0 0 4 3 】

〔 変形例 2 〕

上記実施形態の通気部材 3 は、例えば、図 3 B に示すようなけらばに対しても適用可能である。

【 0 0 4 4 】

変形例 2 のけらばは、野地板 2 のけらば側の端部の下方に、破風板 2 6 が設けられている。破風板 2 6 の下端部は、通気部材 3 の屋外側に配置されており、破風板 2 6 の下端面が邪魔板 3 3 とは隙間を介して配置されている。

【 0 0 4 5 】

本変形例においても、外壁材 1 2 は縦胴縁 1 1 を介して壁下地 1 に取り付けられている。通気部材 3 は、外壁材 1 2 の上端面にシーリング材 5 を介して配置されており、縦胴縁 1 1 に取り付けられている。なお、図中の符号 2 5 は、けらば唐草である。

10

【 0 0 4 6 】

なお、本変形例において、通気部材 3 は、破風板 2 6 を有するけらばに設けられたが、図 3 C に示すように、破風板 2 6 を有さないけらばにも適用可能である。

【 0 0 4 7 】

〔 実施形態 2 〕

次に、実施形態 2 について図 4 , 5 に基づいて説明する。なお、本実施形態は実施形態 1 と大部分において同じであるため、同じ部分においては同符号を付して説明を省略し、主に異なる部分について説明する。

20

【 0 0 4 8 】

本実施形態の通気部材 3 は、実施形態 1 の通気部材 3 に比べて、本体部 3 0 の構造が異なるが、その他の構造は同じである。

【 0 0 4 9 】

本実施形態の通気部材 3 は、支持板 4 1 が、下底板 4 5 と内側板 3 1 とを連結している。支持板 4 1 は、水平面に沿っており、外側板 3 4 に直交している。

【 0 0 5 0 】

図 5 に示すように、屋内側開口 3 7 から流入した空気は、水受け部 3 6 と内側板 3 1 との間を通り、天板 3 5 と上底板 4 6 との間を通る。そして、下底板 4 5 と上底板 4 6 との間を通った空気は、支持板 4 1 の貫通孔 4 3 を通過して、屋外側開口 3 8 から流出する。

30

【 0 0 5 1 】

本実施形態の通気部材 3 においても、屋外側開口 3 8 を下方から覆う邪魔板 3 3 を有している。邪魔板 3 3 の先端は、図 5 に示すように、外壁面よりも屋外側に突出しているが、本体部 3 0 の外側板 3 4 よりも屋内側に位置している。

【 0 0 5 2 】

本実施形態の屋根は、垂木 2 2 の屋外側の端部に、化粧下地 2 7 が固定され、この化粧下地 2 7 の屋外側の端面に化粧部材 2 4 (鼻隠し) が固定されている。化粧部材 2 4 は、化粧下地 2 7 の下面よりも下方に突出している。

【 0 0 5 3 】

通気部材 3 は、外壁材 1 2 の上方に、実施形態 1 と同じようにして取り付けられる。通気部材 3 の本体部 3 0 の外側板 3 4 は、化粧部材 2 4 の屋内側の面に当接して設置される。このとき、本体部 3 0 は、邪魔板 3 3 の先端よりも屋外側に突出しているため、化粧部材 2 4 に当接して設置することで、化粧部材 2 4 と邪魔板 3 3 の屋外側の端部との間に隙間を形成することができ、施工時に、通気路 4 0 を塞いでしまうのを防ぐことができる。すなわち、本実施形態の本体部 3 0 の外側板 3 4 は、邪魔板 3 3 の屋外側の端部よりも屋外側に突出して化粧部材 2 4 と当接する当接部 4 4 を構成する。

40

【 0 0 5 4 】

この当接部 4 4 としては、本体部 3 0 の外側板 3 4 に構成されたものでなくてもよく、例えば、外側板 3 4 に、屋外側に突出したスペーサ部材を取り付け、このスペーサ部材により構成されてもよい。この場合、スペーサ部材は、化粧部材 2 4 の裏面に当接する。

50

【 0 0 5 5 】

また、本実施形態の通気部材 3 も、実施形態 1 と同様、通気路 4 0 の流路断面積が、通気方向に沿って、大小繰り返し形成されているため、万が一、屋外側開口 3 8 に雨水が流入した場合であっても、雨水が通気層 1 3 に至りにくい。

【 0 0 5 6 】

〔効果〕

以上説明したように、上記実施形態および変形例の通気部材 3 は、外壁材 1 2 の上側に設けられ、壁下地 1 と外壁材 1 2 との間に形成された通気層 1 3 と屋外空間とを連通し、該通気層 1 3 を通気するための通気部材 3 である。通気部材 3 は、通気層 1 3 内に開口する屋内側開口 3 7 と、屋内側開口 3 7 に連通すると共に屋外側に開口する屋外側開口 3 8 と、屋外空間から屋外側開口 3 8 に向かう気流を邪魔する邪魔板 3 3 とを備えている。

10

【 0 0 5 7 】

この構成によれば、通気部材 3 を外壁材 1 2 の上方に配置した場合において、外壁面を吹き上げる風雨が、屋外側開口 3 8 に吹き込むことを、邪魔板 3 3 によって邪魔することができるため、雨水が通気層 1 3 に浸水するのを抑制できる。

【 0 0 5 8 】

また、本実施形態の通気部材 3 は、次の付加的な構成を有する。すなわち、本実施形態の通気部材 3 において、邪魔板 3 3 は、屋外側開口 3 8 の下方に配置され、該屋外側開口 3 8 よりも屋外側に向かって延出している。

【 0 0 5 9 】

20

この構成によれば、外壁面に沿って吹き上げる気流が屋外側開口 3 8 に吹き込むのを効果的に防ぐことができる。

【 0 0 6 0 】

また、本実施形態の通気部材 3 は、次の付加的な構成を有する。すなわち、本実施形態の通気部材 3 において、邪魔板 3 3 は、屋外側ほど上方に位置するように傾斜している。

【 0 0 6 1 】

この構成によれば、外壁面を吹き上げる風雨が、邪魔板 3 3 によって方向転換されて、屋外側開口 3 8 から離れる方向に向く気流となる。この結果、風雨が滞留するのを抑制できる。さらに、屋外側開口 3 8 の近傍にスムーズな気流を形成できるため、屋外側開口 3 8 内を負圧にでき、通気側開口から空気を積極的に引くことができる。

30

【 0 0 6 2 】

また、本実施形態の通気部材 3 は、次の付加的な構成を有する。すなわち、本実施形態の通気部材 3 は、屋外側開口 3 8 の上方に設けられ、通気部材 3 の屋外側に設けられる化粧部材 2 4 と当接する当接部 4 4 をさらに備える。当接部 4 4 は、邪魔板 3 3 よりも屋外側に位置する。

【 0 0 6 3 】

この構成によれば、通気部材 3 を施工する際に、屋外側開口 3 8 を化粧部材 2 4 で塞いでしまうのを防ぐことができる。

【 0 0 6 4 】

また、本実施形態の外壁構造は、上述の通気部材 3 を備えた外壁構造である。外壁構造は、壁下地 1 との間で通気層 1 3 を形成する外壁材 1 2 と、通気部材 3 とを備える。通気部材 3 は、外壁材 1 2 の上方に配置され、通気層 1 3 と屋外空間とを連通し、邪魔板 3 3 を有する。邪魔板 3 3 は、外壁材 1 2 の屋外側の面よりも屋外側に突出している。

40

【 0 0 6 5 】

この構成によれば、外壁面を吹き上げる風雨が、屋外側開口 3 8 に吹き込むことを、邪魔板 3 3 によって遮ることができるため、雨水が通気層 1 3 に浸水するのを抑制できる。

【 0 0 6 6 】

〔応用〕

本実施形態の外壁材 1 2 は、縦胴縁 1 1 を介して壁下地 1 に取り付けられたが、縦胴縁 1 1 を設けず、取付金具を用いて、外壁材 1 2 を壁下地 1 に取り付けてもよい。なお、こ

50

の場合、取付金具により通気層 13 が形成される。

【0067】

邪魔板 33 は、屋外側ほど上方に位置するように傾斜していたが、これに限定されない。例えば、鉛直上方に突出するように構成して、屋外側開口 38 を覆ってもよい。屋外側開口 38 を覆っていれば、水平方向に延びてもよい。

【0068】

上記実施形態および変形例の屋根は、外壁面からの突出寸法が比較的短い構造の屋根であったが、通常 of 突出寸法で形成された軒先を有する屋根に適用してもよい。

【0069】

その他、上記実施形態の構成は、本発明の主旨を逸脱しない範囲であれば、適宜設計変更を行うことができる。

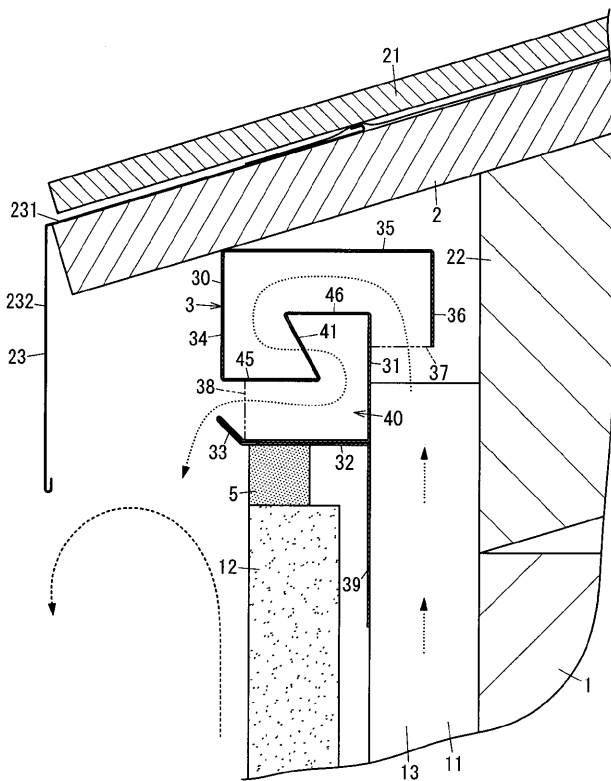
【符号の説明】

【0070】

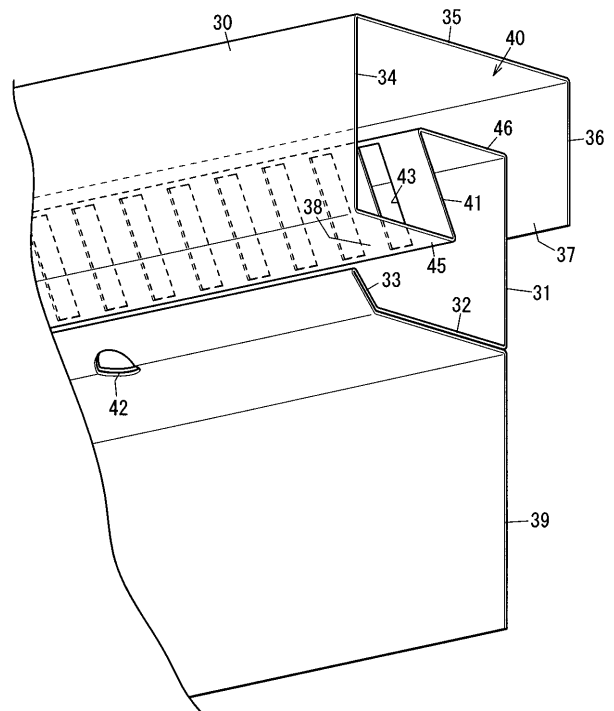
- 1 壁下地
- 12 外壁材
- 13 通気層
- 24 化粧部材
- 3 通気部材
- 30 本体部
- 33 邪魔板
- 37 屋内側開口
- 38 屋外側開口
- 44 当接部

10
20

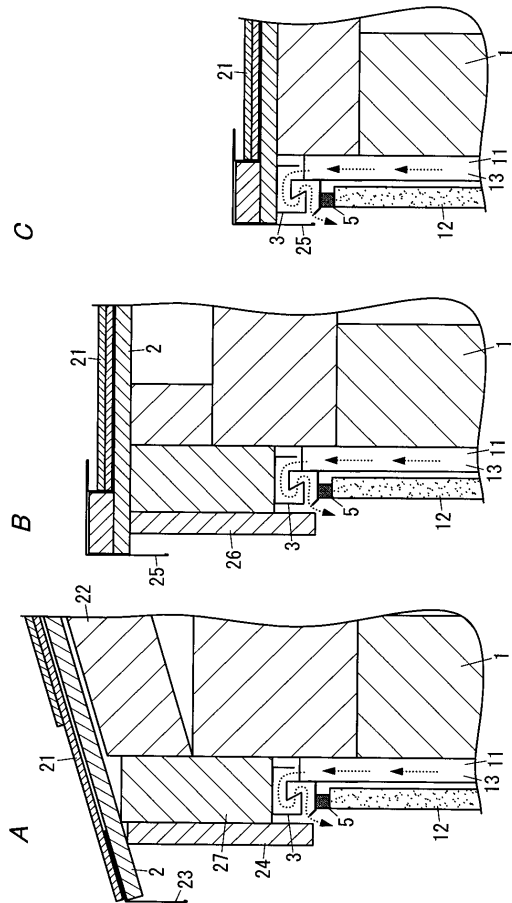
【図 1】



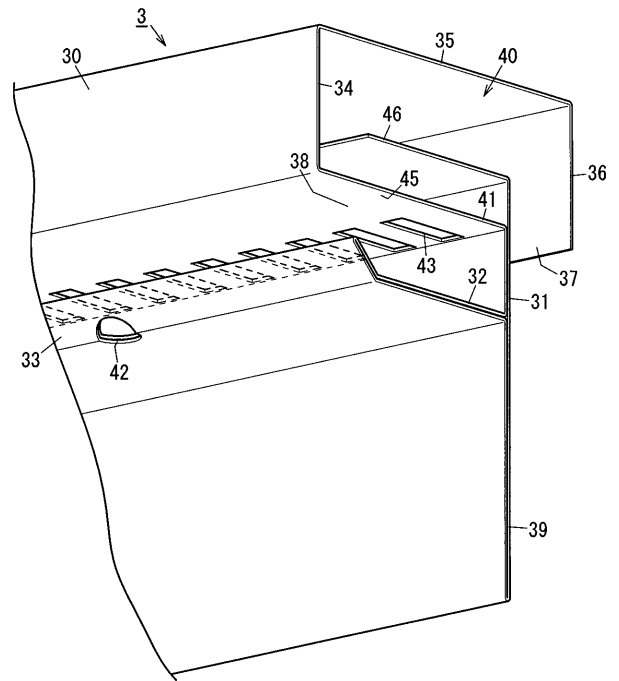
【図 2】



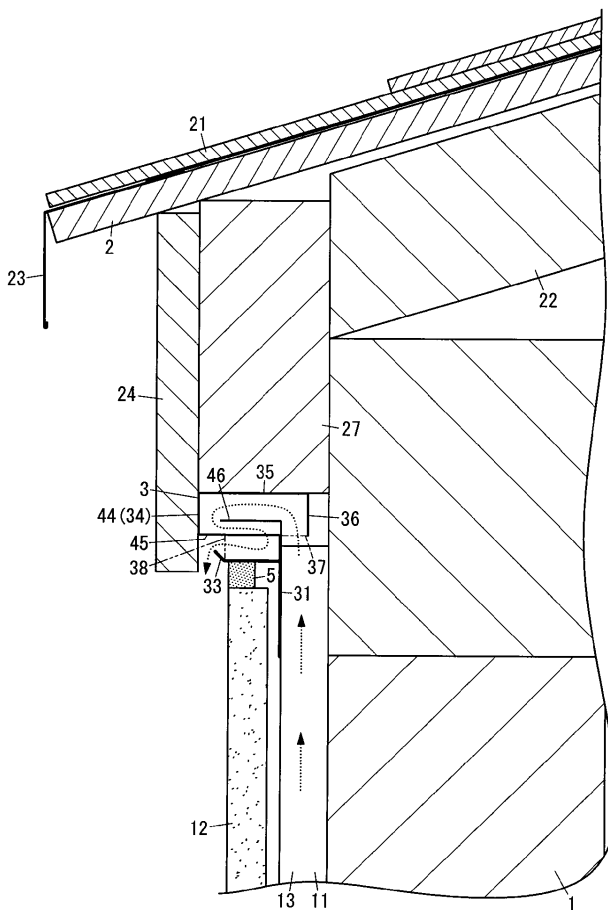
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(74)代理人 100162248

弁理士 木村 豊

(72)発明者 小林 沙瑠

大阪市中央区域見一丁目2番27号 ケイミュー株式会社内

Fターム(参考) 2E001 DA01 DA02 DB02 DB05 FA04 FA19 GA60 HB02 MA02 MA04
NA07 NB01 NC01 ND15